

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3771600638
法人名	有限会社 新名防災設備
事業所名	グループホーム青い鳥
所在地	香川県仲多度郡多度津町大字架葛原下所451番地1 (電話)0877-32-0037

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価決定日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(20年7月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年9月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	22人	常勤12人, 非常勤10人, 常勤換算	12.65人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階 ~ 2階
------	----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	11,010円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210円	昼食	525円
	夕食	525円	おやつ	105円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	3名	要介護2	3名			
要介護3	7名	要介護4	4名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.11歳	最低	76歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡部医院(内、外科)	たかぎ歯科医院
---------	------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の広がる空気の澄んだ閑静な環境のなか、当事業所は鉄骨2階建てで建っている。玄関を入ると、右側にゆったりとしたソファが置かれ、外出から帰ったお年寄りを思わず一服といった気持ちにさせる心遣いが印象的である。内部は採光に配慮し明るく、利用者はゆったり安心して過ごされている。なお、小規模多機能型事業所が開設されていて、地域住民の集いの拠点となりつつあることが伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	評価の課題である、運営理念の啓発、地域交流については地域特有の困難な事情を抱えるなか、徐々にホームの存在、機能などの理解を求める努力をしている。また、入居者の対応においても家族、本人の希望を極力取り入れるよう努めている。散歩、買い物、外出、外食など特に力を入れている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	利用者主体とした自立支援に向けた、介護サービスの資質向上に取り組んでいる。職員会などをもって、資質向上の成果が得られるよう、さらなる向上を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は町担当者、地区老人会会長、家族代表などの参加のもと開催されホームの活動内容を報告し理解を得ている。今後、基準省令をもとに定期的に開催し、助言、意見交換から地域との交流促進のために活かせる話し合い、職員が意見などを共有し活かせることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の面会時に、状況報告したり意見を十分聴くようにしているが、ホーム内の「ふれあいボックス」はあまり活用されていない。運営推進会議に家族参加を呼びかけているので、意見が反映されることが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	散歩時に挨拶したり、言葉を交わすなど地域へ近づく努力をしている。行事など地域への働きかけ、地域の付き合いをさらに広げるまでには至っていない。地域自治会、婦人会、老人会などの協力を得ながら地域交流への積極的取り組みが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の四つの理念のもとに運営され、その具体的理念を職員は認識し、日々のケアに反映している。	○	折角、理念のもと、よい運営がされているが、外部へのアピールが望まれる。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時職員全員が復唱することによって、理念の確認、意識づけがされ日々のケアに取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶をしたり言葉を交わすなど地域へ近づく努力はしているが、行事ごとなど地域へ働きかけ、地域のつきあいをさらに広げるまでには至っていない。	○	地域自治会、婦人会、老人会などの協力を得ながら、地域の行事に参加する。また、保育所、小中学校などと組織的交流が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員の意見のもとに行われ、自己満足することなく日々のサービス向上に努めている。外部評価においては調査の意義、目的を職員は理解しており、改善に向けて非常に協力的である。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町担当者、地区老人会会長、利用者家族などが参加のもと開催されている。ホームの活動内容の報告をし理解を得ているが、意見の記録がないため、サービス向上にどのように活かされているのか、不明である。	○	今後、基準省令をもとに定期的開催し、職員が会議時の助言、意見などを共有し、サービス向上に活かせるような記録を残すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町との連携はよく取れている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時利用者の日常生活状況、健康状態に変化のあった時は電話連絡をおこなっている。</p>	○	<p>家族の意見をも配慮し、ホーム便りなど定期的報告の検討を期待したい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に「ふれあいボックス」を設置し、家族の意見、苦情などに対応できるようにとりくんでいる。ふれあい箱に意見が入ることはなく、面会時の対応がほとんどであるが、出された意見に関しては全職員で検討、改善に努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1年間、職員の異動はなく馴染みの関係は維持されている。職員は利用者の把握に努め、馴染みの関係が続くよう配慮、努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業主は、事業所内外研修の受講を推進強化している。研修については、全員に研修開催状況を知らせ受講を働きかけている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員間で同業者との交流もあり勉強している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急激な環境の変化を避けるため、入所前に来所していただき、当日は職員が傍について支援できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の言動、家族からの情報をもとにその人らしく穏やかにペースに合った生活を支援している。押しつけの介護ではなく、職員と協働している場面も見ることができ、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向の把握に努め、情報を職員が共有し、利用者の希望に沿った対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者に家族参加を促し、共に納得のいく介護計画が利用者本位で作成されている。独自のアセスメント表により介護計画の方向性がしっかりと定められた介護計画である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月に1回見直し、状態の変化時には現状に合った計画に見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度化しても、医療機関と連携をとり本人、家族の要望に応じた対応をするよう努め、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医があれば、そこで医療を継続できる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を尊重して入所時は希望を聴いている。状況に応じて入院、看取りの方法などを家族、医療機関と相談して職員全員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時に個人情報保護誓約書を作成しており、個人情報には注意している。入浴、食事、トイレ介助時は特に注意して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を把握し、希望、好みを可能な限り実現し、ゆったりと生活ができるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員共々楽しく食事をしている。後片付けや準備もできる人は職員と一緒にやっている。食事メニューも利用者の好みを取り入れられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決まっているが、順番や時間帯は気分や状態により考慮している。夜間の排便失敗時などはシャワー浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の会話の中から役割、楽しみを見つけ得意の作品を作って貰い展示したり、菜園を担当してもらうなどの役割をし、気晴らしにつながるよう支援してる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所が特に力を入れて支援している。散歩、買い物、希望外出、外食など日常的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置している。利用者の気配で見守り、状態によっては一緒に外出するなど配慮している。常時、鍵をかけないケアは困難で状況により施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルが作成されており、定期的に火災訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	可能な限り希望を取り入れたメニューに配慮し、栄養バランス、水分摂取量が確認、把握できるよう支援している。糖尿病や飲み込みが困難な利用者には個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりとしてテレビ、ソファが設置され、入居者同士が自由に思いのまま過ごせる居場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付け家具以外に使い慣れた馴染みの物を持って来ていただき、居心地のよい居室として安心して過ごせるよう配慮している。		